
転生レジェンディア

トライ?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生レジュンディア

【Zコード】

N7759P

【作者名】

トライ?

【あらすじ】

不定期のグダグダした内容の小説です。それでもよければどうぞ。

1-話（前書き）

まいじてお願いします。

突然だが、オレは死んでしまった。何を言っているのか解らないと思つが、事実そうなのだ。

テイルズオブグレセスチを買つたあとトラックに轢かれてしまつたのだ。

今、自分の轢かれた体を見下ろしている。このまま浮幽靈になつたりするのかな？なんて楽観的なことを思つていると、突然引張られる感覚がして次の瞬間には真っ白な空間が広がつていた。こんな突然の事で理解が前の自分では急に出来ないと思うのに理解してしまつていて、靈体になつたことと関係があるのでだろうか？

「説明してやるうか？どうしてお前が此処にいるのか。いや、呼んだって言つたほうが正しいな。」

「呼んだ？・・・・・どうしてオレなんか呼んだんだ？其れよりも、此処は、何処でアンタは何者なんだ？」

「そんなに、一気に質問するなよ・・・一つ一つ答えていくから。」

「解つた、じゃあまず此処が何処か教えてくれ。」

「此処は、転生の空間だ。特別な理由がある時のみ此処に死者が呼ばれる。」

「聞きたい事が増えたな・・・まあ、二つ目だ。アンタ何者なんだ？薄々解つてきてはいるが。」

「私が？私は、世界を管理しバグを消す者。君らの所で言つと神に成るのかな？」

「神か、予想していた事だな。しかし、何故オレを呼んだんだろうか？」

「神よ、最後の質問だ。何故オレを此処に呼んだのだ？それに転生

とは一体なぜ？」

最後、之が一番重要なことだ。

「何故呼んだのか、それはバグを消すためさ。君はバグでね、あの世界から消さないと行けないそれも死亡という形でね。で、普通バグは死んで終わりなんだけど何故か意識があつた君を如何にかしないとまたバグが起きちゃうから此処に呼んだわけ。その如何にかが、転生つてわけだね。」

何だと・・・・オレがバグで死ないと成らなかつたとは。もう死んでいるか。

「質問はほかにある？無いなら転生先を説明するけど。」
すんだ事は後回しだ。転生先はかなり重要なからな、ひぐし等の死亡フラグ乱立する世界とか絶対いやだ！

「無い様子だね。じゃあ、転生先について話すね。転生先は、TOしてだよちなみに主要人物と確実にかかわる人物にね。」
TOしか、前にやつたな。

「了解したぜ。ただ、誰に転生するんだ？関わる人物かなり多いぞ。」

ソロンとか嫌過ぎる。

「それはね、水の民の誰かだよ。おつと時間が無くなつて來たね。そろそろ送るからね、心の準備しといてね。」

水の民でも三、四人いるぞ。つてもう時間なのか。

「準備できたみたいだね。ま、頑張つて生きてね殺した僕が言う事じゃないけどさ。」

まったくだ。別に未練無いからいいけどね。

「じゃあね。転生ありがとよ。」

意識を失つていくなかでそう神に呴いた。聞こえてるといいがな。

1話（後書き）

グダグダですね。文才欲しいです。

オレの自我が目覚めて思った事微妙、そう微妙なのだ。何故か？それは転生した先がワルターだったのだ。

イケメンで勝ち組だらう・・・だが、中盤で死ぬボスキャラなのだ。今、五歳つまりあと十一年しか生きられない。

メルネスつまりシャーリィの親衛隊長になるはずだったがセネルと言つ名のシステムに立場を捕られ嫉妬に似た感情で敵対していたが、光跡翼で死亡する。

キツイ、五歳の頃から親衛隊になるのがきまつっていたみたいだ。五年の記憶の中にも今までの努力が入っている。

「当面の目標は、死なない事だな。それにこの世界の未来もイレギュラーが無ければ分かる。アドバンテージが、大きい今なら出来るかも知れない！」

そう、未来が分かるつまり対応策が打てるのだとこのアドバンテージは確実なのだ。

やる事は三つ。一つは修行セネルの他に剣士、オヤジ、盗賊、トレジャー・ハンター、忍者、そして、覚醒していないが神とも戦うのだと原作より強く成らないとすぐ死ぬだろう。

二つ目は、テルクエス。これは、ゲームをしていて思ったのだが魔物に出来るならもつと自由に動かせるのでは無いのか、武器にした

り出来ないのかなど。

三つ田は、セネルとシャーリイのなかを出来るだけ悪くする事。たぶん一番重要なことで仲がいいままだと原作と同じ展開になるだろうからだ。

ん、誰か来たな。父様かな？

「ワルター話がある居間に来てくれ。修行はその後にするから用意も持つて来い」

「分かりました父様。すぐに行きます。」

多分、親衛隊の事だろうが、何故だ嫌な予感がする・・・。

少年移動中・・・・・・・・・・・・

「なぜです！……なぜこのような子供が親衛隊に入るのですか！」「落ち着け……それに、隊員ではなく補佐だと言っているだろう。」

今、一番言いたい事それは・・・・・・どうじてこうなった。

居間に連れて行かれたオレは、何故か親衛隊の副隊長エルさんに会わされた。それに、親衛隊のメンバーまでいるし。分けが分からないので父様に説明を求めるも、後で分かると言つばかり全く意味が分からない。

「今日、集まつて貰つたのはワルターの事だ。ワルターは、五歳ながらも魔物を倒せる強さだ。将来ワルターは親衛隊に確実に入るだろう隊長になるかもしけん。そこで、親衛隊の補佐をさせる事にした。実戦の経験を多く学ばせ水の民の希望メルネスを守る最強の盾であり矛でもある親衛隊の希望になつてもう。そう、歴代最強だ。・・・・・ゲートですら一人で倒せる最強の親衛隊に！！」

・・・・・は？いやいや、ちょっと待て一人でゲート倒せるとか無理だろ！ていうか、期待しそうだろ！なんかワルターの嫉妬の原因分かつた様な気がする。とまあ、こんな感じで上のよだな展開になり今、まだ続いてるし。俺の意思関係なしだし。・・・・・本當どうしてこうなつた

2話（後書き）

駄文過ぎる。——

展開早い！！

本当にうまいなった···

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7759p/>

転生レジェンディア

2011年10月7日20時56分発行